

審 査 講 評

第84回大分県畜産共進会 肉牛の部（令和5年10月7日）

第84回大分県畜産共進会、肉牛の部の審査が皆様のご協力により無事終了したことに對しまして、審査委員を代表して心からお礼を申し上げます。

枝肉の審査につきましては、（公社）日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格を基準として行いました。

まず、黒毛和種ですが40頭の出品がありましたが、3頭は枝肉重量が基準に達していなかったため参考出品となり、計37頭で審査いたしました。

37頭の枝肉格付けの平均値は、A率97%、枝肉重量524.6kg、ロース芯面積75.3cm²、バラ厚9.09cm、皮下脂肪厚2.63cmでした。

昨年に比べ、枝肉重量、ロース芯面積、バラ厚で成績が向上しています。

次に肉質ですが、4・5率は100%、BMSNo.の平均は10.2でした。これは昨年の9.2に比べ、1ポイント向上していました。

昨年度より、「脂肪の質」を評価する新たな賞が設けられましたが、美味しさの指標の1つとされるオレイン酸含有値の平均は53.9%で、昨年に比べて0.2%向上しています。

この中から、最優秀賞首席は出品番号16号の日田市、天瀬ファームさんの「美津桜号」に決定しました。

成績については、ロース芯面積は118cm²、バラ厚10.4cm、皮下脂肪厚1.5cm、BMSNo.12でした。特筆すべき点は枝肉重量が634.8kg、歩留まり基準値82.5と出品牛の中で最も素晴らしい枝ぶりであることに加え、BMS、ロース芯、皮下脂肪についても全体1位と、枝ぶり、肉質とも申し分ない成績であり、審査員一同満場一致で最優秀賞首席とさせていただきました。

また、出品番号27番は、枝肉重量542.2kg、歩留まり基準値81.6、BMSNo.12、ロース芯面積110cm²と首席に劣らずこちらも素晴らしい枝肉でありましたが、僅差で2席とさせていただきました。

次に、2区の交雑種去勢牛は10頭の出品でした。

10頭の平均値は、枝肉重量571.6kg、ロース芯面積61.6cm²、バラ厚8.0cm、皮下脂肪厚3.67cm、BMS No.4.5であり、枝肉重量、ロース芯面積で改善が見られました。

そうした中で、今回の最優秀賞首席は、出品番号46号の豊後高田市、矢野康紀^{やのやすのり}さんに決定いたしました。

この枝肉は枝肉重量538.7kg、ロース芯面積87cm²、バラ厚7.5cm、皮下脂肪厚3.1cm、BMSNo.9でした。

今回の出品牛の中で格付けがA5と最高値で、枝肉重量・脂肪交雑ともにトップクラスであり、脂肪の質においても、遜色ない肉質を有していました。

以上のことから、最優秀賞首席とさせていただきます。

また、脂肪の質賞ですが、出品番号3号の杵築市、石元牧場さんの「しんなお2」に決定しました。オレイン酸含有値は57.2であり、A5に格付けされた出品牛の中より枝ぶり等から総合的に評価して決定させていただきました。

昨年に比べまして、黒毛和種では、枝肉重量、ロース芯面積、BMSNo、バラ厚で改善が見られました。肉質の向上はもちろんですが、流通段階では枝ぶりの良さがより重要視されております。今回は歩留まりやロース芯面積など枝ぶりに優れる牛が数多く出品されているところでありますので、今後とも一層の技術向上に努めていただきますようお願いして審査講評といたします。

令和5年10月7日

第84回大分県畜産共進会肉牛の部

審査委員長 武石 秀一

審 査 講 評

第84回大分県畜産共進会
肉用牛の部（令和5年10月21日）

特別賞審査について審査講評をさせていただきます。

農林水産大臣賞には、第2区若雌の2に出品いただいた19号牛、由布市 秦 正次郎さん出品の「はなゆり」に決定いたしました。この牛については、発育体積・均称に優れ、また若雌らしい品位を兼ね備え、体上線のしっかりとした種牛性に優れた牛でありました。今後、発育体積を維持しながらも種牛性に優れた雌牛たちを地域に保留し育てていくという意味において、モデルとなる出品牛であったことから、農林水産大臣賞に選ばせていただきました。

次に、九州農政局長賞には、第5区女性・後継者の部に出品いただいた40号牛、竹田市 内田 慎之介さん出品の「ゆり2022」に決定いたしました。この牛は、後軀や乳微に惜しまれる点はありませんでしたが、発育良好で伸びやかさがあがり、体積と均称に優れた雌牛でありました。さらに父牛は大分県有種雄牛「葵白清」ということで、県有種雄牛を中心とした大分県に特色ある種牛作りの取組への評価も含めて、九州農政局長賞に選ばせていただきました。

最後に、部位賞には、第1区若雌の1に出品いただいた9号牛、竹田市 佐藤錦也さん出品の「かつこ」に決定いたしました。この牛については、輪郭鮮明で若雌らしい伸びやかさを備えた中で品位もある牛であったことから、品位賞とさせていただきます。

本日の共進会における取組の成果を生かし、地域に根付かせ、第13回全共での優秀な成績を目指して取り組んで頂けるようお願いいたします。以上で審査講評とさせていただきます。本日はありがとうございました。

令和5年10月21日

第84回大分県畜産共進会 肉用牛の部

審査委員長 武石 秀一

第84回大分畜産共進会 乳牛の部 審査総評

北海道上士幌町 酪農家 吉田 智貴

この度歴史ある大分県畜産共進会の審査顧問をさせていただきました。

私も酪農家であるため、優美であるとともに機能性や将来性を加味したうえで審査させていただきました。未経産は月齢に応じた発育、骨格の正確性、また良好なコンディション、肋腹の状態、経産牛は更に乳器の質、機能性、品位、乳用性を念頭において審査いたしました。

1部 乳用牛の資質に優れた牛が揃っていたクラスでした。1位にしました102号においては、クラスの中で特に背線の強さを持ち、肋の開帳した牛でありました。2位の112号も輪郭鮮明で資質に富んだ牛でありました。1位と2位の差は前肋の充実度、あるいは、き甲部の鮮明さといった点において1位の牛の方が優っていました。

2部 このクラスは3頭の出品でした。特に上位2頭は接近した牛でした。その中で1位にしました202号牛は中軀の強さがあり、体全体のフレームの強さも兼ね備えた牛でありました。2位にしました203号においても、発育良好、若牛としての品位、骨格の正確性に於いて優れていましたが、1位の牛の方が背腰の強さと後肢の運びの正確性といった点で2位の牛よりも優れていました。3位の201号の乳用性、肋腹の充実、背線の強さは評価いたします。

3部 未経産の中で一番大きいクラスで、4頭の出品でした。1位にしました302号においては、非常に骨格構造が正確な1頭で、比較的簡単にこのクラスの1位と決定することができました。2位の301号も体全体のバランスに優れた1頭でありましたが、1位の牛の方が、よりフレームの強さと尻の構造において優っていました。

未経産最高位

各部から2頭の計6頭で比較させていただきました。どの牛もこの場にふさわしい若牛達でした。その中で4頭を選出し、最終的に3部主席牛を最高位、1部主席牛を準最高位にさせていただきました。未経産の最高位にした302号牛は、最も正確な骨格構造をしており、尻長と尻幅などにも優れた牛で将来期待できる牛と判断させていただきました。準最高位に選んだ102号牛は乳用雌牛としての資質に優れ、顔の品位、頸の長さや鮮明さを持った素晴らしい牛でありました。準々最高位があるとするならば、3部2席の301号牛を上げたいと考えます。この牛も体全体のバランスに優れた牛でありました。

4部 2歳級のクラスで、体と乳器のバランスに優れた経産牛が揃っていたクラスでした。その中で、403号牛を1位とさせていただきました。出品牛の中でも特に乳器の質感の良さと付着の強さ、また乳頭サイズにおいても望ましい牛でありました。2位の牛は、力強さを持ち、体長と体高も十分な牛でありましたが、1位にしました牛

の方が、より体全体のバランスや肋の開帳度、あるいは乳器における力強さと乳器構造において、より正確な乳器構造であると判断させていただき、この序列とさせていただきます。

5部 3歳以上のクラスでした。私自身も3歳以上というクラスの審査が初めてであり、産次数など様々なアドバンテージを考慮して序列を決定させていただきました。5頭の出品の中で、501号牛を1位およびBUとさせていただきます。この牛は3歳2産の経産牛で、身体と乳器のバランスに優れ、特に乳房底面の高さや付着の強さは素晴らしいものを持っていました。また、出品牛の中で最も欠点のない1頭でありました。2位にしました4歳級の505号牛と比較した際に、き甲部の鮮明さ、前軀・中軀・後軀にかけての移行の滑らかさにおいても1位の牛の方が優っていました。2位と3位の牛の比較ですが、2位の牛の方が、より乳器構造、特に後乳房の左右のバランスにおいて2位の牛の方が好ましい形状をしていました。3位にしました6歳級の牛も非常に充実した中軀をした牛でありましたが、上位の牛の方が、より肩後や背腰の強さ、あるいは乳器構造において優っていました。その他の牛も素晴らしい牛が出品されていました。

経産牛最高位

4部・5部の4頭の経産牛の審査をさせていただきました。その結果、経産牛の最高位には、5部主席の501号牛と決定させていただきました。3歳級の牛で、今回出品された経産牛の中で、最も欠点が少なく、正確な骨格構造をしており、中でも乳器の付着は非常に強く、若々しさも感じる牛でありました。準最高位には、同じく5部の4歳級505号牛と決定しました。この牛は体各部位の移行が正確かつスムーズで乳用性にも富んだ牛でありました。4部主席の牛は、体と乳器のバランスに優れ、また尻長があり幅もある牛であったことは評価しています。4部2席の牛は、中軀が充実しており、幅もある2歳級の牛であったことは評価しています。しかしながら、最高位の牛は乳用性に富み乳器においても優れた機能性、付着の強さを有しておりました。準最高位の牛も乳用性、乳器のすばらしさを有しておりました。準最高位との差は後乳房の幅と付着の強さにおいて準最高位の牛の方よりも優っていました。

総評

この共進会を審査させていただき、大変光栄に思っており、終えさせていただきました。出品者各位、また準備に携わって頂いた県酪をはじめ各関係機関の皆様へ改めて、お礼と敬意を評したいと思います。